



# 農とみどり 通信

2024/1/31

1月号



発行：NPO法人 せたがや喜多見 農とみどり

## 地元農家と供にある喜多見の歴史について



比較的まだ農地が残っているこの辺り（喜多見周辺）です。  
その理由を聞いたことがあります。

この辺りの農家は江戸氏の家臣が農民になっていて、  
それゆえ代々伝わる土地を大切に売らないようにしているという。  
これを聞いてちょっと驚いた記憶、たぶん40年ぐらい前のこと。  
話の出所は町会の関係とだけにしておきます。  
でも確かなことだと思います。

なぜならを今回の話題とします。

### ◎慶元寺の江戸太郎重長

江戸太郎重長公をご存知でしょうか。

あの腰かけている銅像（お寺の山門に向って右側手前）の方です。





その前に、そもそも江戸氏とはの？？？があります。  
WikiPediaからの引用では次の通りです。

江戸氏は秩父平氏の直系。

桓武(かんむ)天皇6世にあたる平将恒を祖とした秩父平氏は多くの支流を出した名族で、武士が政権を握った鎌倉の始まり11世紀の頃、秩父氏の秩父重綱の4男の秩父重継が秩父氏より分家して江戸に居を構え江戸の姓を名乗ったのが始まり。

江戸氏の開祖は重継、その子が重長です。

2022年のNHKの大河ドラマ”鎌倉殿の13人”がありました、その勢力争いなどの展開の中で実際に活躍していた武将で、ドラマに出できてもおかしくない武将です。大河ドラマを見ていた方だけにしか伝わらないので恐縮なのですが。

慶元寺報 平成24年9月 「江戸氏・喜多見氏について（田中隆之）」からの引用です。

1180年8月23日 (伊豆に近い)石橋山の合戦 頼朝は安房(千葉県の南端)に逃げ延びる。  
8月26日 平家軍の将として畠山重忠、河越重頼、江戸重長が三浦一族の本拠・衣笠城を攻め三浦介義明を討取る。

9月28日 頼朝は下総の国府(今の市川)に到着。秩父党の豊島氏、葛西氏は頼朝に服従したが、江戸氏、河越氏は応じず。頼朝は使者を出し「先の三浦攻めは不問に付すから令旨を奉じ速やかに参陣せよ、汝は武蔵の国の棟梁云々」と呼びかけたが重長は頑として応じず。

9月29日 頼朝は葛西清重に重長の暗殺を命じたが未遂。頼朝は江戸川を渡り強行突破をすすめる、同族にふりかかる災いをみるにしのびずと葛西清重らは重長の説得に努める。

10月4日 遂に重長は一族の畠山重忠、河越重頼と共に頼朝陣営に参向した。

10月5日 頼朝は重長を武蔵の国庁職に任じ、武蔵一国の支配権を与えた。

この頼朝と重長の対立の物語は後世の人に感銘を与えたとみて、「源平盛衰記」や「義経記」には重長は英雄的人物としてえがかれている。

重長を”八カ国の大福長者”などと記している。鎌倉候人別所当をもつとめた。6万町の所領を賜った。江戸氏の繁栄がはじまった。

1185年 平家との八島一の谷の合戦に一族郎党を従えて参戦

1186年 重継(初代)の菩提のために重長が東福寺を建立。場所は江戸城内の紅葉山。

1190年 奥州藤原征伐に供奉

1195年 頼朝上洛に奉僕

1205年 畠山重忠の謀殺、江戸氏が秩父系平氏の”一門の棟梁”武蔵武士団に君臨。  
その所領は、江戸をはじめ、木田見、丸子、六郷、柴崎、飯倉、渋谷、高田、豊島、荏原、多摩の各郡に及んだといわれている。

※慶元寺報は今も年4回発行されています。

※この地名の木田見が、北見 となり 喜多見 となります。

慶元寺報「江戸氏・喜多見氏について」の引用です。

あの銅像のお方はどのような人生を送ったのか、歴史の資料と田中先生の解釈もあり、私達は歴史の一端を知ることができます。

巻頭には、このようにあります。

「江戸氏についての文献資料が少ない中、田中隆之さんが東鑑（あすまかがみ）、太平記を始め多くの古文書の中から江戸氏について記述されている部分を抽出研鑽して「江戸氏・喜多見氏について」と題して昭和47年から14年間、慶元寺報に連載していただきました。田中隆之さんは地域の郷土史家として力を注がれ世田谷区社会教育にも籍を置かれ、地域の文化興隆にも尽力され世田谷区より文化厚労賞も送られておられます。

生前、氏が小冊子にまとめたいと考えておられたのですが完成されることなくご逝去されました。残念です。寺報に掲載されたものをご遺族の方の了解を得て一冊にまとめることにしました。

平成24年9月 慶元寺第32世 道誉元鏡

また次の記載もあります。

(1673)元禄6年 德川実紀から

喜多見氏（江戸氏20代重政）の家臣

- ・香取 新兵衛
- ・香取 治部右枝門信伊
- ・斎藤 治平栄忠
- ・伴 治左衛門資職
- ・城田 庄左工門直明
- ・原田 玄蕃 重季（喜多見茂兵邊衛 重治の生母の父）

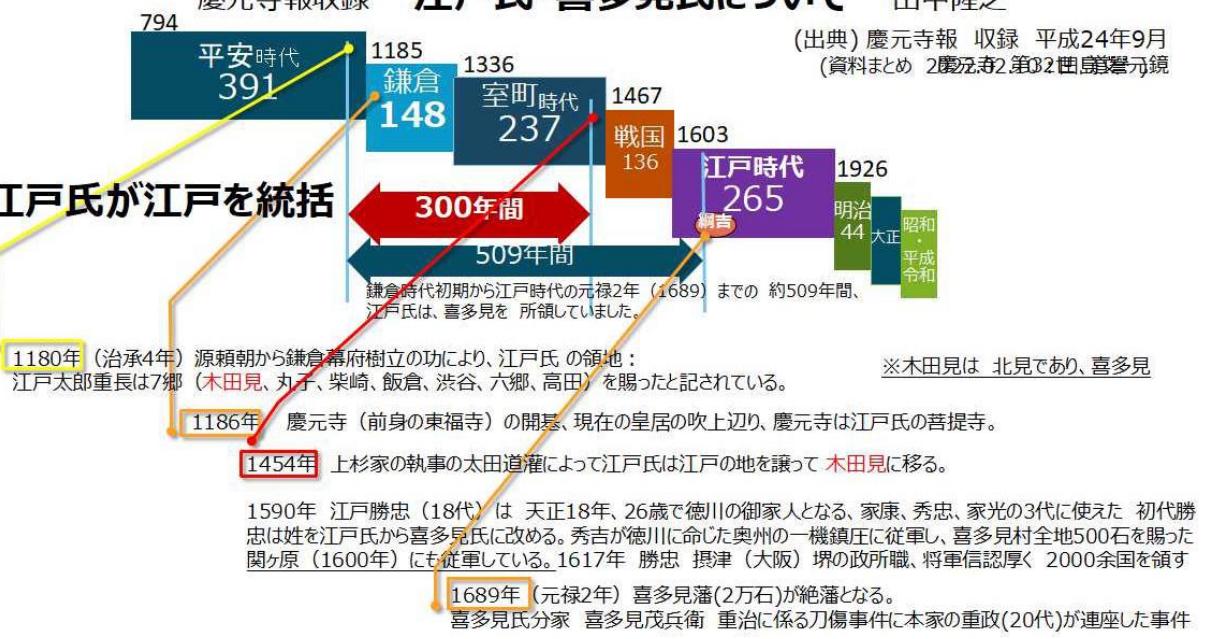
※香取新兵衛は喜多見氏分家の重治の家人、朝岡直国を殺害し自害切腹

ここに並んでいる姓はよくある喜多見の地元衆の姓です。お寺に居並ぶ墓石をみても、地元衆は分かります。

### 慶元寺報収録 “江戸氏・喜多見氏について” 田中隆之

(出典) 慶元寺報 収録 平成24年9月  
(資料まとめ 2慶元寺2.第32世道誉元鏡)

#### 江戸氏が江戸を統括



このような記載もあります。

1682年（天和2年）若狭守重政（20代/喜多見氏3代）綱吉公の御側用人見習いを命ぜられる

1683年 6800石の加増、合わせて1万石となり大名に列せられ和田倉に江戸屋敷を賜った。

1685年 貞享3年 さらに1万石加増を賜り、2万石大名となる。周囲諸藩の羨望の的。

1689年（元禄2年）喜多見藩は除封され廃藩と記されている。

さしも権勢を極めた喜多見氏もその栄華（大名）は、僅か6年で廃藩の運命に遭遇した。

重政は伊勢の（国桑名藩主）松平越中守定重にお預け。

家臣は一朝にして浪人となり、他領に職を求めて喜多見を去ったり、土着して帰農したといわれる。

新編武蔵国風土紀稿：

村内に香取、斎藤、小川を氏とする村民四戸ありいづれも喜多見氏の家来にて故あるものよし

その姓を名乗る同族が今も喜多見の地に栄え、当時の人々の名が刻まれた墓碑が現存している。

## ○喜多見の歴史・今に残る記憶

「遠祖への想い」という言葉を知りました。乏しくなっていく記憶、でもしっかりと続くご先祖への想い。

家系は世代を重ねると過去の記録や記憶は失われていきます。ものは壊れると断片になります。残った断片をみても元の何かは分かりません。しかしながら断片となった記憶の塊は、他の別の断片の塊とは同じではありません。

喜多見周辺には地元農家さんと供に、多くのものが残っている様に思えます。

残すことは難しいのでしょう。でも何かは残っていて、その何かは過去にあった何かを確かに引き継いでいる様に思えます。江戸氏の供養塔は慶元寺の墓地の中央です。

## ○長い歴史を今に伝えるお稲荷様

（喜多見7丁目クリーンファーム隣接、櫻と萱の木の下の小さな社）



長い歴史を今に伝える原田欣明氏（1日と15日にお稲荷様を式守し、お清めする）の記述（祠の横に伝承を掲示）

式守の継承、このお稲荷様は神璽（しんじ）を祭ってありこの地の繁栄を願って大切に式守いただいています。平安時代末、一の谷・屋島・の戦いに敗れた武士がスサノオの尊を持って現喜多見の地に免れてきたとの言い伝え。

武士の持ってきたスサノウの尊は氷川神社に一緒に奉ったとあります。河川の氾濫移転の度に喜多見の草分け11人衆で式守してきたそうです。

11人衆（原田、城田、石井、小川、小泉、斎藤、田中、橋本、永見称、香取、箕輪）

※ 喜多見11人衆には、幾つかの異説があるようです。

## ○ぽんぽこ会議の歴史調査から

多くの方が喜多見の歴史に興味をもたれ調べ、資料を作成されています。

その一つに『ポンポコ新聞』があります。

例えば、喜多見城及び喜多見陣屋跡～23区に存在した唯一の藩、須賀神社や慶元寺のある辺りがお城の主な推定地です。

興味深いお話、喜多見の歴史の掲載があります。

[https://ponpoko.jpn.org/03\\_thingsa01.html](https://ponpoko.jpn.org/03_thingsa01.html)

## 江戸太郎重長公の像 台座裏のご説明



重長は始祖重継の子、江戸氏二代目である。  
江戸の地に居を構え周辺を領有していた。  
再起した源頼朝武蔵入國に助力した功により  
武蔵國諸雑事、在府官人、並びに諸郡司を仰せ  
付けられ、更に源平合戦、奥州征伐等に参戦  
鎌倉幕府樹立に尽力し右兵衛尉に任ぜられ  
武蔵七郷を賜った武将である。  
文治二年、父の菩提のために江戸館地の紅葉山に  
建立した東福寺は慶元寺の前身である。  
当山開基八百年に当たり、  
江戸太郎重長 頤彰報恩 の意を以ってこの像を建立す。

昭和六十年 十一月三日  
願主永劫山 慶元寺  
第三十二世 道誉元鏡

※ 1186年 重継(初代)菩堤のための東福寺を建立  
(2024-1186) =838年の歴史

※ 頤彰：隠れた善行や功績などを広く知らせること。  
広く世間に知らせて表彰すること。

慶元寺は800年の歴史、作ったのは江戸氏、江戸太郎重長。  
江戸氏の家臣もこの地に寄り添いつづけて今がある。  
この地に続くヒトの営み。

自ずと地元のみなさまへの尊敬の念も生まれます。  
そして基軸となる過去を現世のヒトにつなぐお寺の営み。  
重長公の想いはどのようなものだったのでしよう。

さてそれでは、今を生きる市民の私達には、何ができるのでしょうか。

(記：田島文一 2024年1月27日以上)



# てづくり市場との出会い 3

## 畑で野菜を作り、子どもたちへ届ける！

こんにちは。先月は、私が初めての農作業をきっかけに畑の活動に関わりだしたこと、そして、会で使える畑の活用について議論している時期だったことを書きました。  
今月はその続きです。

私は当時、家の近くの「おでかけひろば」（世田谷区の事業で、未就園の乳幼児の親子が過ごす場所）にスタッフとして勤務していましたが、コロナの影響でひろばは閉室。そんな中、コロナの影響で家計が不安定になっている家庭もあることから、家計がピンチな世帯に対し、食品を配布する事業（以下「フードパントリー」と記載）が始まり、私はその仕事を担当しました。

フードパントリーで米やレトルト食品などを配布している時に、ふと、田島さんが昨年の夏キュウリが食べきれない程できた、と話していたことを思いだし、フードパントリーのスタッフの皆さんに「野菜の配布が出来たら喜ばれますか？」と、聞いてみました。すると、調理が必要な野菜は家庭の負担になる可能性もあるが、子どもが生でかじれる野菜は喜ばれるだろう、ということでした。

そこで、畑の皆さんに「夏休みのフードパントリーでキュウリを配布できないか？」と言ってみたところ、田島さんが「植えられる畑はあるが、夏のキュウリは毎日収穫しないといけない。小堤さん収穫を担当しますか？」と。私はすぐに「収穫します」と答えました。畑の場所は喜多見で、うちからはそれなりに遠いし、それまで毎日畑に通ったことなどありませんでしたが、子どもたちにキュウリが届けられるならとにかくやってみよう、という勢いだけで答えました。

5月のはじめ、田島さんと一緒に畑にキュウリとミニトマトの苗を植えました。キュウリの苗はすぐすくと育っていました。私はフードパントリーの活動を続けながら、できるだけ畑にも通いました。畑では雑草もすくすく育っており、私は、夏にキュウリがたくさん実り子どもたちに手渡すことを想像して、わくわくしながら雑草を取りました。

このきゅうりをきっかけに、夏になるにつれ、私の生活は加速度的に畑へと傾斜していきますが、、、その話は次の機会に。



田島さんが植えてくださったキュウリの苗。奥はミニトマトです。

（記：小堤明子 2024年1月28日）

## 喜多見の冬、1月の風景

次太夫堀公園に、ちらほら梅が咲きはじめました



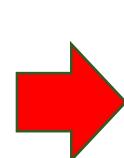
農とみどりオフィシャルサイトにぜひおいでください！

「農とみどり」のオフィシャルサイトができました。  
URLは以下です。

<https://www.nou-midori.org/>

ぜひ、ごらんください。

スマホからは、右のQRコードから  
簡単にアクセスできます。



The screenshot shows the homepage of the Nou-Midori official website. At the top, there is a navigation bar with links for Home, First-timers, Main Projects, Frequently Asked Questions, Blog, Events, News, and Contact. Below the navigation bar is the website's logo, which features a circular emblem with a sun, a tree, and a mountain, with the text "農とみどり" and "農とみどり通信". The main title "せたがや喜多見 農とみどり" is displayed prominently. Below the title, a subtitle reads "～みんなで行動！街の”はたけ”の継続を願って行動～". A large photograph of a woman smiling while holding a crate filled with fresh vegetables (green beans and tomatoes) is centered on the page. The background of the website is white, and the overall layout is clean and modern.

# 農とみどりの活動：2月・3月のイベント予告

2月の市場はお休み  
次は3月開催です →



そら豆が運用するマルシェ  
野菜は喜多見フラワー菜園産



主なお客様は下校中の小学生  
関屋さんが運営しています。



今月のお知らせは以上です。

ご不明な点や、ご意見ご希望はなんなりと、このメールアドレスにお願いします。

Copyright © 2023 せたがや喜多見 農とみどり, All rights reserved.

- メールアドレス: [tezukuri.hatake@gmail.com](mailto:tezukuri.hatake@gmail.com)  
メールはこちらのQRコードからもOK
- 喜多見4-9-7 世田谷区、東京都 157-0057

